



フランス 国際ボランティア

海外ボランティア



実施日：平成29年8月7日～平成29年8月27日
実施場所：Ladinhac (France, Auvergne-Rhône-Alpes地域圏, Cantal県)

概要

フランスのボランティア団体であるJeunesse et Reconstructionが主催する国際ワークキャンプに、国際教育交換協議会(CIEE)を通じて参加した。参加にあたっての事前準備や渡航・移動手段の手配は全て自分で行き、現地での生活も自炊型の集団生活のため自主性が求められた。今回の参加の経緯としては、前年(2016年)にフランスに短期留学したがあまり現地の方々との交流ができなかったため、地域の方々と共に暮らしながら地域に役に立つ活動ができるプログラムを選択したいと考えた。加えて、伝統的な村における建造物の修復・維持活動に興味があり、このプログラムへの参加を決めた。

活動内容

ACT FOR A TYPICAL VILLAGE - LADINHAC

Location	自然豊かなLadinhac村、Parisから電車で半日ほど
Member	11人(フランス、スペイン、メキシコ、中国、日本から)
Language	メンバー同士は英語、村の人とは英・仏・西語
Work	伝統的建造物・学校等の修復、石橋・壁のコケ取り
Leisure	カヌー、サイクリング、古城見学、野外劇祭り
Event	村の人々との交流パーティ、ファミリーディナー
Accommodation	村の閉店したレストラン(現在は給食食堂)を間借り

7h	8h	10h	13h	19h	24h
起床	朝食・身支度	ミーティング	ワーク	掃除・洗濯・炊事	夕食
				余暇 観光	入浴・レク
					就寝

ボランティアワークは平日の午前中を中心に、村内の伝統的建造物・公共施設・宗教的モニュメント等の修復や、石造りの橋・壁のコケ取りといった維持管理を、村の方々と一緒に行った。毎日同じ内容の仕事をするのではなく、ワークや炊事を数人ずつのチームで分担しながら協力して作業を進めた。Ladinhac村にはスーパーがない(村唯一のお店がパン屋)ため、余暇の時間を利用して近隣(車で40分ほど)の大型スーパーへ買い物に出かけ、食品や洗剤など生活に必要なものを調達していたほか、村でとれた野菜をいただいたり、メンバーが各国から持参した食材を使ったりすることもあった。休日は近隣へカヤックやお祭りなどに出かけた。



図1.伝統建造物「セカド」のリノベーション



図2.チームに分かれての修復作業



図3.村の風景
BBQでも牛の音が響く。



図4.伝統的な小屋式の窯でパンを焼く



図5.カヤック中の一枚



図6.十字架を高圧洗浄



図7.橋のコケ取り



図8.集合写真
村の方々と一緒に。



図9.国際ショナルミール
自国の料理を村の方々に振る舞った。



図10.古城見学

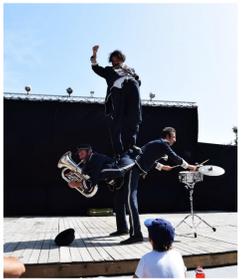


図11.大道芸フェスティバル

総括

私は2年次にフランスのディジョンへ短期留学に行っており、その際に航空券や現地での電車の手配などを経験していたため、今回も現地までの移動はすべて自分で行う必要があったが、特に問題なくできた。また、メンバーとの会話は主に英語を使ったが、村の方々と電車等で出会う方々とはフランス語で会話する場面も多く、これまでに習得したフランス語を生かすことができた。

海外での集団生活では、お互いの意見が合わなかったり、生活習慣の違いに困ったりすることもあった。しかし、自分の意見を主張するだけでなく、他人への配慮とお互いにとって気持ちよく生活できる方法を話し合うことで、3週間楽しく過ごすことができた。たとえば今回のメンバーは出身国も文化も違い、加えて食物の好き嫌いやアレルギーがある人、vegan(菜食主義者)もあり、食事のメニューを考える際には普段の一人暮らしとは比べ物にならないほど気を使ったが、楽しい食卓にするためには欠かせないことであった。

Ladinhac村では、ワークそのものにおいても建造物の歴史や使われ方を知ったうえでの作業は非常に勉強になり、加えて仲間や村の方々と会話も楽しかった。そして、村内の橋や小屋が自分たちの手できれいになっていき、それに対して村の人たちが感謝の言葉をかけてくれることはとても嬉しかった。残念ながら私たちの滞在期間中に終わることができなかった部分は、村の方々が引き継いで作業にあたってくださり、プロジェクトメンバーの一人であった村の高校生が、完成した写真を送ってくれた。メンバーや現地で出会った方々とは現在もSNS等を通して交流があり、一生の友人がたくさんできたと感じている。今後も機会があれば、このような海外ワークキャンプへ、あるいは日本国内で行われる国際ボランティアプロジェクトへ、リーダーとして参加したいと考えている。

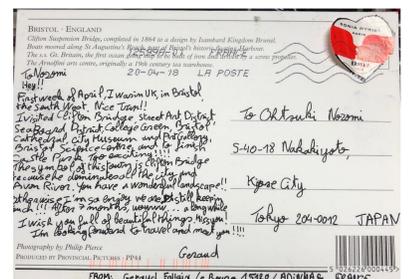


図12.Ladinhac村からの手紙
写真は2018年春に届いたもの。

謝辞

今回の参加にあたり、応援して下さった群馬大学の先生方・事務職員の皆様、ならびに出発まで様々なアドバイスをしてくださったCIEEの方々(もともと参加予定だったプログラムが中止になり、急遽このプログラムへ変更するという事態でどうなるかと心配でしたが、現地団体への連絡方法など丁寧に教えて下さいました)、フランスでお世話になった方々(ボランティアメンバー、Ladinhac村の皆様、電車で出会った陽気なムッシュ)、そして背中を押してくれた友人たちに感謝申し上げます。ありがとうございました。Je vous remercie pour votre gentillesse.